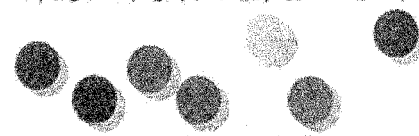


# 生きいき憲法

日野原重明

東京の九条の会をつなぐ



九条の会  
東京連絡会

## 憲法九条は人類の宝

羽田 澄子

私は終戦を旧満州の大連市でむかえている。天皇のラジオ放送を聞いたのは、勤めさきの満鉄の中央試験所の研究室だった。実はその年の3月の終わりまで3年間、東京の学校にいて卒業、やっと家に帰ったところだった。東京の3年間は大東亜戦争つまり太平洋戦争の真只中の3年間だった。最後の1年間は学徒動員で、中島飛行機製作所に動員され、エンジンを作る工場で働いていた。昭和19年11月、東京大空襲が始まったとき真っ先に爆弾が投下されたのはこの工場だった。空襲のたびに工場に大きな穴が開き、破壊がひどくなっていった。クラスメートの一人は防空壕に直撃弾を受けて亡くなった。大連の家に戻る列車に乗るために新橋駅のホームに立ったとき、見渡す限り焼け野原になった東京の風景に胸が詰まった。何時死ぬかもしれない、と覚悟して暮らしている日々だった。それだけに、天皇の放送で戦争が終ったことを知ったときの開放感は表現できないほどおおきかった。



私は日本が戦争を放棄した憲法を持ったことを、大きな喜びとともに何の不思議もなく受け入れた。20世紀は世界中で戦争の続いた世紀だった。しかし21世紀は人間がもっと利口になり、平和な世界になるのではと思ったが、その想いは完全に覆された。思えば人類の歴史は、繰り返された戦いの歴史の記憶が強いといえるのではないか。それ故にこそ無残な戦いの体験から日本が掲げる「戦いを放棄した憲法」は、ほんとうは人類全体が目指したい宝といえる憲法だと思う。

〔はねだ すみこ 記録映画作家〕

発行 九条の会東京連絡会 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3太陽ビル503 TEL 03-3239-6716

FAX 03-3239-6717 ホームページ [www.9jo-tokyo.jp](http://www.9jo-tokyo.jp) メールアドレス [mail@9jo-tokyo.jp](mailto:mail@9jo-tokyo.jp)

ニュースのタイトル「生きいき憲法」は日野原重明さん(聖路加国際病院理事長)の命名・揮毫によるものです。

## 九条の会東京連絡会 1周年のつどい 参加者の間に感動ひろげた講演



九条の会東京連絡会は、発足してから10月24日で満1歳を迎えました。

いま明文改憲をすすめる動きと共に、国連決議による自衛隊出動をふくむ解釈改憲など、日本国憲法を改悪しようとする動きが憂慮される情勢です。

こうしたなかで、改憲反対の1点で草の根から共同をひろげていくことが求められており、首都東京に草の根からの強大な改憲反対の基盤をつくりあげていこうと、東京連絡会は発足しました。この1年の経験をふまえて、さらにいっそう改憲反対の世論と運動を発展させようと九条の会東京連絡会は、発足1周年のつどい「ひとつめ」を10月24日、「ふたつめ」を11月13日に開催しました。

この二つのつどいの模様を紹介します。

ひとつめ

**日野原重明さん 「アクセル踏んですすもう」と  
メッセージ  
日色ともゑさん 心に響いた詩の朗読で・・・**

東京連絡会が発足の準備をはじめた昨春、真っ先に賛同の返事をいただき、「ニュース」の題名と揮毫をしてくださった日野原重明さんが、ようやく時間をつくっての講演が実現した「1周年のつどい・ひとつめ」。10月24日（土）の午後、一ツ橋の日本教育会館8階の大会議室に約200人が集まった。

ビルの1階へ出迎えにいかねばと思っていたら、ご本人が8階まで階段をスタスタと昇って来られた。話には聞いていたが、息も切らしていない。会長をされている学会とダブルブッキングして、会の途中、抜け出して来られたとのこと。

今日の演題は『生きいき憲法～98歳からのメッセージ』。前日、東京大空襲・戦災資料センターを訪ねての感想を述べ、「戦争を知らない人、空襲を知

らない人たちが、広島・長崎の原爆だけでなしに東京で戦争があったことを知るために、ぜひ行って見てほしい」とよびかけて始められた。

戦争はあってはならない、平和憲法を変える国民投票のときに「ノー」という声をひろげるために、九条の会東京連絡会はわずか発足1年だが、グーッとアクセル踏んでスピード出して進んでほしい。いま、核兵器を持っているアメリカ軍と自衛隊と一緒に訓練をしているのだから、日本は核兵器を持っていると同じだ。私は10年先には核兵器も沖縄の基地もなくすという運動に持っていきたい。今、民主党政権が普天間基地をどうこうすることだが、アメリカの力が強いから маниフェストを変えなくちゃということにぶつかっている。架空の маниフェストは

日本を救わないということを考えながら、国民が意思表示するには九条の会というのはいい。

みなさんの手元のリーフレットにある「新老人の会」、究極的には平和運動。75歳以上でシニア、60歳以上はジュニア、20歳以上はサポーター。私が会長で会員が1万人以上。3年後には5万人になる。これが「九条の会」と一緒になって日本を守る。軍備のない国になれば、よその国から攻撃はされない。今、北朝鮮の核兵器のことをいうけれど、アメリカなど8カ国が核兵器を持っていて、それを持ったまま北朝鮮の核兵器ノーといっても、それは聞かないのは当然。そんなとき、オバマさんが核兵器をなくすと言った。これは高く評価するが、被爆国の日本こそが世界を動かすべき。平和の道をつくるには、

日本が自衛隊を自衛軍にしようとしているのを、国民投票でノーという。この数が必要。九条の会は日本中にあるけれど、急上昇しないよね。そして、文化国家は選挙権18歳、17歳。青年は未熟というのが選挙権を持つと成熟するのだ。日本もっと若い人に選挙権を早くする運動を一緒にやろうじゃないか。私は、命の大切さと戦争がよくないということを小学校に行き子どもたちに教えている。

このあと、パワーポイントを使って、シュバイツァー、カントなど先人の言葉を紹介しながら、「今日、私がみなさんに出会った、大きな出会いだったということを信じて、私はみなさんと一緒に行動したいと思います」と、メッセージを結び、参加者の熱い拍手に包まれた。

◇ ◇ ◇ ◇

続いて、俳優の日色ともゑさん（劇団民藝）が登場。日本橋蛸殻町で生まれ、敗戦時は4歳、疎開していたが、3月10日の



大空襲で家は焼かれ、母の実家の本所の家では、祖母と8ヶ月の身重の叔母が焼死。物心ついてから父母からその空襲のときの話を聞いて戦争の怖さ、むごたらしさ、理不尽さへの怒りが正義感の強い子どもをつくったこと。叔母の、この世に生まれることの出来なかった赤ちゃんや、あの戦争で奪われたたくさんのかげがえのない命のために、生きのびた私は、演劇を通して平和な世界をつくるために訴え続けると語り、花森安治作『戦場』を朗読し、参加者に大きな感銘を与えた。



◇ ◇ ◇ ◇

その後、「九条をめぐる情勢と運動」について、九条の会東京連絡会事務局代表の都丸哲也さんが発言。初心にかえって、九条を守る1点でのつながりをひろげ「小学校単位の会」づくりをあくまで追求していくことを訴えた。

◇ ◇ ◇ ◇

最後に、事務局の平野健さんが「1周年のつどい・ふたつめ」の成功と財政活動への協力を訴えて終った。

（高岡岑郷・記）

## ひとつめ アンケートの中から

◆たいへいすばらしい講演でした。あたたかく、勇気が出ました。もっと多くの人が集まるいいのに～。それが少しざんねでした。

◆とてもいい会でした。日野原さんの思いを『私が伝えたいことー命・時間・平和』の本なども使って子どもたちに伝えたいと思います。昨年、6年生担任した時にも、一部を印刷し、子どもたちに伝えました。生の話を聞くことができて良かったです。

◆バタバタと暮らしていて本日は知人の展示会をみに行く車の中で「調布憲法のひろば」を見ました。その中に今日の記事を見て、おちあつた友人と二人で昼食を中止してこちらに参加しました。日野原先生の不戦・憲

法を守る姿勢を私たち一人一人が守り、家族（子供・孫）友人に平和の大切さをつたえていく必要を強く感じました。日色さんの朗読、身内から聞かれた戦災の悲惨さを生き生きとうったへられ、心に強くひびきました。◆日色ともえさん半生の詩朗読、解りやすく良かったですよ！

◆講演「生きいき憲法 98歳からのメッセージ」日野原先生の説明、頑張る力がわきました！

◆東京連絡会の大切さは理解で切るのですが、地域でコツコツとピラをまき集いを開いている町の方々にどれだけ応援できているのか、応援しているのかを知りたいと思います。何しろ大きな力は地域から広めていかないと考えていますので…。

◆私は「大田九条の会」にかか

わっていますけど、中々時間的に思うような運動ができません。思想・信条を越えた幅広い運動がどう出来るか。「学生九条の会」の発言は素晴らしい。

◆小学校単位に会をつくる方向で努力したい。1300人余の会員をかかえ、どう会を民主的に活発に運営していくかが課題です。

◆私どもは地域で九条の会の世話人会を毎月もち、毎月のように講座を開き、催しものを行っています。朗読、講演、紙芝居等々、自分で言うのも変ですが、お母さんたちが本当によくやっています。私もそれを応援し、企画づくりをしています。その応援をここに参加している労働者（組合）文化関係者がもっと協力しないと思っています。よろしく。校区ごとに九条の会を、それを成功させるために!! 都丸さんのしめくくりのことばが良かったですね。

ふた  
つめ蓮池透さん・拉致問題解決の道  
桂 敬一さん・『東アジア共同体』  
と九条の新しい意義

九条の会東京連絡会発足1周年ふたつめのつどいは、11月13日夜、豊島公会堂で開催しました。

このつどいでは、「どうする日本と東南アジア」という視点から、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会前事務局長の蓮池透さんが「拉致問題の解決の道」と題して、元東京大学教授でマスコミ研究者の桂敬一さんが「『東アジア共同体』と九条の新しい意義」と題して講演をおこないました。

またフォーク歌手のきたがわ・てつさんが日本国憲法前文などを歌い、高校生・大学生が参加者に訴えをしました。



## 「拉致問題解決の道」

## (蓮池透さんの講演要旨)

「お前のところは解決したのだから、黙ってろ。よけいなお世話」というプレッシャーを受けていると前置きして 蓮池さんは静かに 話はじめた。オバマ大統領の来日があつて、警視庁は厳しい警備体制をとっていた。それでも、小雨降る豊島公会堂前を右翼の宣伝カーが2回通過したが、妨害行為はなかった。1階ホールはほぼ満席であった。5人の拉致被害者が祖国の地を踏み家族との再会を果たしたのは2002年10月、実に24

年の歳月が経っていた。拘束されていた北朝鮮での暮らしはどうだったのか、この疑問に蓮池さんは次のように話した。

「ある晩、志村さん夫妻と弟たちは集まって話し合った。そして悩んでいないでこの国で生きることを考えよう。そのためには日本に帰るのをあきらめようと誓い合った」

「兄貴なあ、日本に帰りたいとか、早く両親の顔見たいとか考えたら死ぬしかないんだよな、あの国は」という薫さんの言葉が過酷な生活環境のすべてを物語っているように思える。人権を奪われた被害者はこの手段以外に北朝鮮で生き抜く道がなかったのだ。拉致という犯罪の恐ろしさの本質はここにあるのではない。悲しさと怒りで胸が締め付けられた。最近、蓮池さんは拉致問題の解決のためには北朝鮮に対して制裁を強化するよ

りも対話とか交渉をやるべきではないかと発言している。そのため家族会などから変節しただの裏切り者だの北のスパイだとか言われている。この疑問に答えては蓮池さんは次のようなエピソードを披露した。某大手新聞社の編集長からインタビューを受けたが、インタビューとは名ばかりで、編集長が3分の2はしゃべり「経済制裁して、もっと強めて、まあ根競べなんだ。とにかく北朝鮮は弱ってるから。だから我慢しろよ」と言うんですね。

そして最後に編集長は「あなたは昔あんな強硬なこと言ったんじゃないか。何故変わったんだ」と切り出してこのインタビューの目的がなんであったかあきらかになった。蓮池さんは「確かに昔、非常に軽率だったといまでは思っておりますけれども、改憲派の集会に連れて行かれて何かしゃべれって言われて、で、当時は憲法九条が拉致問題の解決を阻んでいるんじゃないかみたいな、相当馬鹿なことを言ったなど、いま思っておりますけれども。非常に反省しております」と率直に語った。拉致問題の解決を遅らせているはこのような恥知らずなジャーナリストの姿勢ではないか。

さらに、蓮池さんは「帰国した被害者に対して日本政府は「拉致被害者支援法」に基づいて毎月支援金を支払っているが来年3月には5年の期限が切れる。これから帰ってくる人のためにも、帰ってくればその人の生活は日本政府が一生保障するぐらいの施策はとって欲しい」と訴えて理解を求めた。

続いて、民主党政権の対北朝鮮外交について、次のように言及した。「鳩山由紀夫首相は、9月24日の国連総会の一般討

論演説で(1)北朝鮮による核実験とミサイルに対して国際社会の全体の平和と安全に対する脅威であって、断固として認められない。北朝鮮が国連決議を完全に実施すること、そして国際社会が諸決議を履行することが重要であると。日本政府は六者協議を通じて朝鮮半島の非核化を実現する為に努力を続ける。

(2)日朝関係については「日朝ピョンヤン宣言」に則り、拉致・核・ミサイルといった諸懸案を包括的に解決して、不幸な過去を誠意をもって清算して国交正常化を図る。

(3)特に拉致問題については、昨年合意した通り速やかに全面的な調査を開始する等の北朝鮮による前向きな行動が、日朝関係の進展の糸口となる。北朝鮮の前向きな姿勢があれば、日本としても前向きに対応する用意がある」と述べた。蓮池さんは「この3点の内容については同感だが、諸懸案を包括的に解決するというように発言しているがご都合主義にしか聞こえない。拉致問題というのは、日朝関係、拉致について単独で戦略を立てるべきだと思う。政権交代は対北朝鮮政策についていままでとは違った方向に大きく舵を切るチャンスだと、考えている。ところが2006年、制裁が発動された。闇雲な経済制裁は、北朝鮮の感情を悪化させて彼らの結束を固めるだけで、決して被害者の救出にはあまりつながらないのではないか」と疑念を述べ、拉致問題の経過を振り返った。

「2002年9月14日以降、日朝間で四回拉致問題の政治決着が企てられて、全く失敗に終る、それで日朝関係はもつれてしまった。

第一は、2002年9月17日小泉総理の訪朝。24年間放置してきた拉致問題を9月17

日、一日で終りにしようとした。金正日総書記が拉致を認めて謝罪すれば、国交正常化出来ると、そういう水面下での密約があったのではないかと疑っている。私に言わせれば、あの日は謀略の日であったと思う。

第二の政治決着は、5人の一時帰国という決着です。これは何かと言いますと、5人が生きてるってことを国民の皆さんにアピールして、大きく盛り上がった北批判を、少しでも沈静化させて国交正常化につなげるという政治決着です。5人は完全に日本に帰ってくるのではなく、僅か二週間という短期間の一時帰国と、とても信じられないような日本への帰り方で、私は帰ってきたとは思わなかった。

第三は、小泉さんの再訪朝です。再訪朝で五人の家族が日本に来れば、拉致問題も解決というか進展を国民に訴えることが出来て、それで国交正常化に向かえるだろうという道もあったわけですが、これも失敗に終わりました。

四つ目の政治決着は先ず、外務省は何とか恵さんの死亡を証明しようとして北朝鮮側に迫って、証拠を出せと。そしたら北朝鮮が恵みさんのものとされる遺骨を出してきた。ところがその遺骨は偽者であるということが暴露されて、国交正常化どころか日本の世論はますます北批判に拍車がかかった。

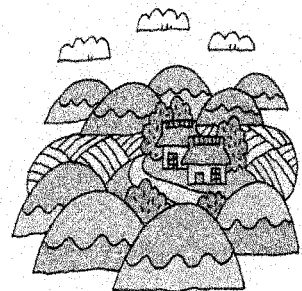
拉致問題を何とか解決しようという四回の政治決着、拙速な国交正常化はことごとく失敗に終わりました。北朝鮮は何を怒ってるか、彼らは一体何を望んでいるのか、よく考えて欲しいと思う。そして日本は何をすべきなのか、理性的に戦略的に対処して欲しいと思う。原則論を貫いて制裁ばかりにこだわっていたならば、私は身動きがとれなくなってしまう。対話と交渉と

いう路線の模索は必要である。いかなる民族が相手であろうとも、対話と交渉なくして真相の解明と和解はない。そして「日朝ピョンヤン宣言」というものが、唯一の合意事項ですから、それを「てこ」にして動かしていくべきではないかと思っている。

過去の清算と言いますと、いろんな左右の議論があるが、そういうものには関わりたくないが、「日朝ピョンヤン宣言」にもはっきりうたわれておりますし、鳩山首相も「村山談話」あるいは「河野談話」を継承するというふうに仰っております。ただ過去の清算と言っても非常に曖昧な言葉で、何をやるのかさっぱり分からんというところがありますから、過去の清算というものをきちんと具体化して、準備して、堂々と行動する姿勢を北朝鮮側に提示して、そして彼らの同時行動を求めていく、それしかないのではないかというふうに私は考えています」そして、最後に蓮池さんは「ピョンヤン宣言に則ってこの八人死亡というのをどうやってひっくり返していくのか、ここに我が国に誕生した鳩山政権の手腕を問われるというふうに思いますし、何とかして膠着状況を打開してもらいたい。私はそういうふうにただただ思うだけでございます。これからもよろしくお願いたします」

と講演を終えた。参加者からあたたかい拍手が送られた。

(小林義明 記)



## 『東アジア共同体』と九条の新しい意義 (桂敬一さんの講演要旨)



アジアの国々はそんな日本が変わってくれることを望んでいます。そういう意味で鳩山の「東アジア共同体」に期待が寄せられています。でも、ここでも大手新聞は鳩山に対して「反米

自民党から民主党に政権が変わりました。でもこれが本当の転換になるかどうかは「55年体制」から転換できるかどうかにかかっています。最近話題の八ツ場ダム、日航危機、派遣労働、医療荒廃などはすべて55年体制の中で作られた問題です。

「核密約」問題や普天間基地問題もサンフランシスコ平和条約以来の日米安保体制の中で出てきた問題です。こうした55年体制を変えてはじめて本当の転換と呼ぶことができるのです。それなのに大手の新聞3紙は、特に安保問題ではアメリカの意向を汲んで、口を揃えて「変えるな」「変わるな」という社説を書いている。一体どこの国の新聞だと言いたくなる状況です。

そのアメリカは、9.11以来対テロ戦争を掲げて、「不安定の弧」と呼ばれる地域(北朝鮮～アフガン～中東)に即戦力を送り込むために日本の基地再編を進めてきました。普天間基地の名護移転計画も、べつに沖縄県民のためではなく、最新鋭の基地が欲しいためにやっているにすぎません。そんなアメリカから日本は自立できておらず、アメリカの「虎の威」を借りて、大国ぶってアジアを軽視してきた。それが55年体制の一番悪いところですよ。

だと受け取られないようアメリカを招き入れろ」と主張しています。東アジア共同体についてはまずは東アジアの国々が中心になって考えるのが筋です。北朝鮮に対しても敵視政策をやめて、むしろ日朝の文化交流を広げること

を考えた方がいい。

「北朝鮮のミサイルの脅威」を言う人がいるが、よく考えてほしい。北朝鮮の方がよっぽど日本に脅威を感じています。むしろ北朝鮮の警戒心を解くようなシグナルを送ること

こそ東アジアの平和にとって大事なことです。

東アジア共同体はEUの真似ではうまくいかないと思います。ヨーロッパには宗教・文化・歴史の共通性という基盤があるが、アジアにはそういう前提がないからです。むしろ多民族・多文化であることを前提に、ゆるやかにつながるやり方が必要です。でもアジアの「やさしさ」を生かせばそれができるはず。例えば、北方四島や竹島などの問題

も国境にこだわるのはやめてコモンズ(入会地)にすればいいんじゃないかと思う。日本がそういう新しい発想のイニシアをとる方向に変化してほしいと思います。

オバマや鳩山の新政権は今後どうなるかわからない面があります。変化せざるを得ないという現実もあるが、他方で変化させまいとする古い体制側からの妨害もあります。そうした妨害を除去して新政権の変化を助けなければいけない。新政権を助けるために市民もどんどん意見を言っていかなければいけない。オバマがノーベル平和賞を受賞した際に「世界がオバマを助けなければいけない」という説明がありましたが、あの意見に私は賛成です。核問題ではオバマの提起に民主党がもっと



ふたつめのつどいでは、フォークシンガーのきたがわ・てつさんが憲法前文など熱唱し、参加者から大きな拍手を浴びました。

明確な戦略で応えるべきです。

それは唯一の被爆国の道義的責任でもある。「どんなときも核兵器は使わない」という国際条約を結ぼうと提案するぐらいのことをしてほしい。こういう憲法九条を持つ国だからこそその発想を持ってほしい。それが九条を活かす道だと思います。

最後に一言。「坂の上の雲」の歴史観は危険です。たぶらかされないよう注意していきましょう。(文責・平野 健)



## 地域から

## 八王子市内すべての9条の会が一堂に会する「交流の集い」 みなみ野憲法9条の会



## 青年大活躍の「杉並・憲法の夕べ」

「9条の会・杉並」連絡会を中心に、多くの団体・個人で実行委員会を作り、杉並公会堂で開催された「11・5杉並・憲法の夕べ」は、900人を超える参加があり、成功裡に終わりました。

開会挨拶は青年九条の会の山田耕平君、司会は同じく中村みずきさん。

最初に新鋭アーティスト西はじめさんの津軽三味線演奏、次いで、全国九条の会事務局長の小森陽一さんと杉並の青年6名によるトークセッション。小森さんを囲み、青年たちが、核兵器のない世界を目指す運動、NPT核拡散再検討会議へ国際署名を届ける取り組み、今後の青年の生き方などについて、こもごも熱い思いを語り、小森さんも、国会内外の政治の動き、マスコミの偏りすぎた報道などについて詳しく、面白く話してくれました。

最後に、湯浅誠さんが「貧困の現場から見た日本社会の形について考える」と題して70分の

講演。湯浅さんは、たくさんのグラフを使いながら、日本の現在の社会のいびつさ、「滑り台社会」の実態を具体的な事例をあげて、セーティネットのあり方などについてわかりやすく話されました。

「津軽三味線の生演奏にしばれた」「杉並の青年たちのエネルギーに明るい未来を感じた」

「雇用の現実を頭に叩き込んでもらい、最後には希望をもらった」等々、集会

を評価するアンケートが約100人の方から寄せられました。

杉並では28ある地域・団体九条の会の月々の講演会・学習会を行いながら、年に一回の大イベントを実施していますが、今年は午後3時から、映画「戦争をしない国日本」(DVD)の上映も行いました。午後と夜の長丁場で、内容も華やかさに欠け地味だったため、心配されましたが、まずまずの成功で実行委員一同よろこびをかみしめ、来年度に向けて夢をふくらませています。



去る10月10日、第12回「八王子平和を愛する文化祭」の企画として、八王子ではじめて市内のすべての九条が一堂に会する

「『憲法9条を守り生かす』交流の集い」を開きました。第1部は「核兵器は無くせるか？」と題して中央大学の学生がパネル発表。核抑止力論をめぐる疑問を率直に問題提起しました。第2部は交流討論会「みんなで平和トーク」。学生の問題提起を受けて年配者も負けじと、朝鮮戦争でアメリカが原爆投下しようとした時、「世界1億人署名」がそれを阻止したことなど、平和運動に取り組んできた長年の経験を熱く語り、途切れる間

もなく発言が相次ぐ活発な討論になりました。

この集いは、企画段階からすべての9条の会に参加してもらい、既成の概念にとらわれずに、それぞれの会の希望や意見を生かす方向で取り組んできました。そして人を集めやすい「有名人による講演会」企画ではなく、9条の会を主人公にしようということで、地域と職場、学生と年配者という垣根を越えてすべての参加者が参加できる「交流討論会」の形を考えました。またもうひとつの交流の方法とし

て、各9条の会の紹介資料（各9条の会の自己紹介、日常活動や課題についてのアンケート結果を綴じた冊子）を作成して、当日、会場で参加者に配布しました。

こうして土曜日の夜という時間帯にもかかわらず、八王子市内の16の9条の会（各地域の9条の会13と大学の9条の会3つ）から約110名の参加者を得て成功させることができました。集会では「若い人との交流ができてよかった」「年配者の発言は重みがあり、勉強になった」「討論に時間をかけてよかった」「素朴な疑問をとりあげて運動を広げたい」「貴重な経験でした」などの感想が寄せられました。この「交流の集い」以降、1つの9条の会があらたに発足し、また9条の会同士で取り組みを紹介し合う、誘い合うなど、横のつながりも生まれ、新たな交流の輪が広がり始めています。



### 輝け憲法音楽と講演の 夕べに450人 北・九条の会

11月24日、東京の北・九条の会の「輝け憲法 音楽と講演の夕べ」が、北区の滝野川会館に450人が集まり開催されました。

日本フィルハーモニー交響楽団のメンバー5人は、外山雄三の弦楽四重奏「原爆許すまじ変奏曲」、「クラリネッ

ト5重奏曲」、ドボルザークの「アメリカ」第1楽章などを演奏。また北区を拠点に日中友好の運動を続ける紫金草合唱団との共演のあと、「原爆許すまじ」を会場全体で唱和するなど音楽を楽しみました。

休憩を挟んで渡辺治一橋大学教授が、「激動する情勢と9条 核廃絶の展望」と題して前日の福井からとんぼ返りして講演しました。

北区の選挙結果（全国に比べ自民・民主合算で7%低く、共産党が5%高い）にもふれながら、構造改革と改憲をキーワードに情勢を分析。「構造改革の結果のくらしの矛盾に対する国民の怒り」と、「自民党の利益誘導にお灸をすえて、構造改革を進めてほしい



という右からの期待」の2種類の自民党離れが、民主党一人勝ちにつながったと

分析。

民主党には、アメリカ・財界の圧力と国民の板挟みになりながらも結局構造改革に向かう部分、自民党が切り捨てた地方の利益誘導団体を取り込もうとする部分、運動や地域との関係でマニフェストにこだわる現場の議員や運動の部分があると指摘。

それに対して、「自衛隊は必要でも改憲反対」の人たちとも手をつないだ九条の会の運動、労働運動と反貧困市民運動の連携に広がった年越し派遣村などの力が、改憲反対から、9条、25条を実現する日本をつくる巨大な運動に発展することへの必要性を強調しました。

そして、55年間、人殺しに行かない自衛隊に留めてきた九条は、東アジア共同体にとっても大切だとして、アメリカ・財界に対抗して、茶の間から出て行動する人を増やす九条の会の前進を訴えました。

参加者からは、92通のアンケート・感想が寄せられました。音楽と講演のコラボレーションは素晴らしかった。今日は本当にきてよかった。元氣と感動をもらったなど大変好評でした。

### 狛江で 蓮池透さん、川崎哲さん 招き講演会

狛江では、改憲の呼び声が露わになって来た2001年の2月に「平和憲法を広める狛江連絡会」を発足させ、憲法をめぐる状況や平和運動についての学習会や署名活動を行ってきた。2005年には、全国の九条の会に連帯する意味から大江健三郎さんら9人の文化人の呼びかけに呼応する活動を行う趣旨で「こまえ九条の会」を立ち上げた。

両方の会は、結局の所、活動を支える世話人がほとんど同じ陣容であることもあり現在は、合同で世話人会を持ち、共に活動している。

今年の秋の学習会は、11月21日に行われたが、北朝鮮問題が日本の軍事力増強を後押ししている現状を踏まえ、「北東アジアの平和を築くために」というテーマで実施した。講師として蓮池透氏（拉致被害者家族連絡会 元事務局長）、川崎哲氏（国際交流NGO ピースボート 共同代表）を招き講演していただいた。

蓮池氏は、「拉致問題を解決するために」という題で講演され次のように話された。



拉致問題が長引き、未だに解決しないのは、弟さんたちの突然の帰国の2002年9月、日朝国交正常化をめざす日本政府がそのためにこの拉致問題を使おうとしたこと、拉致問題を一日で軽く片付けようとしたことが原因と語った。政治決着をめざす政府は、北朝鮮との間で「拉致被害者は一時帰国」の密約をしており、その約束を破ったことで国交正常化への道もこじれ、その後の戦略といえ、武力以外の最終手段である「経済制裁」という兵糧攻めだった。5人の帰国者が北朝鮮に戻らないように強く働きかけたのは、蓮池氏自身であったと語り、拉致された人々の救出と政治問題とは全く別次元のことであるはずなのにそれを政治的に利用しようとした政府に対する憤りを語った。交渉にせよ制裁にせよ、もっと戦略を持って当たらなければ拉致問題は解決しない。また、日本

が過去に朝鮮の人たちに行った仕打ちについて認め、反省し償う姿勢を持って話し合いしようとし、限り解決の道は遠いとも語った。

川崎氏は、蓮池氏の講演を受けて、ピースボートも左右の文脈の中で語られてしまうことが多いが、国家による人権侵害に苦しむ人間に手を差し伸べることは、左右の垣根を越えて人々が取り組まねばならぬこととして、人権問題に取り組む姿勢の共通性を確認した。

ピースボートのきっかけもアジアの歴史問題であり、過去の戦争の反省を日本政府がきちんとしてこなかったことに対するアジアの人々との和解の船旅で始まった。

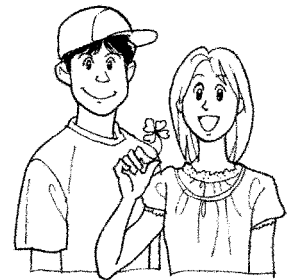
2002年からは、戦争をどうすれば予防できるか考え「武力紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ」(GPPAC)を立ち上げ、北東アジアの冷戦構造を取り除き、

軍縮と脱軍事化、非核化を進めるために様々な活動を行ってきた。

昨年は、九条世界会議を開催したが、一国では平和は実現せず、9条は日本一国では生きられない。イデオロギーに拠らず脱軍事で平和を築くこと、特に東アジアの人々は、冷戦構造を取り除くために結束すべきである、と語った。

今後も狛江では、憲法や平和問題について様々な取り組みを行い、地域からささやかな平和の種を蒔いていきたいと思っている。

(小俣眞智子・記)



## ふたつめ アンケートの中から

◆すばらしい会だったのではないかな？ 講演は2つともとても興味深いものであり、実際に聞かなければわからないことであり、とても意味のあるものだと思う。(無記名)  
◆東京連絡会ならではのビッグゲストでした。自分の中ですでに過去になっていた拉致問題についてじっくり考えさせられました。戦略をもたない日本外交にはがっかり・・・。「得体の知れない民族と接するのは怖い」という外務官僚の言葉は、いかに日本政府が米国(の覇権)頼みで自主性をもたないできたかを如実に

物語っていると思います。勇気をもって日本外交の弱点と課題を告発してくれた蓮池透さんい拍手！ 74才とは思えない若々しさを国際的視野で見た日本のあり方をいきいきと語ってくれた桂敬一さんに感謝！ (K)

◆蓮池さんの誠実さと勇気に、拉致問題のゆきづまり打解(マ)の可能性と、北朝鮮問題解決の可能性があることができました。(練馬・S)

◆現在の活動を続けていくべきであると今日来て、確信について近いものを持った。若い人たちとのつながりには前

向きな驚きをかくせない。報道機関にジャーナリズムが殆どない中での活動はとても大切であると考え。(無記名)

◆各会の活動(お知らせ、報告)を集めたニュースを定期的に発行してほしい。

(印刷・N)

◆来年の企画は「連絡会」として趣旨にあったものだと思います。どう成功させるのか大変だと思いますが、頑張ってください。(高校・S)

◆今後もびっくりするような企画を立ててください。ねりま九条の会がやっているイマジンコンサートのようなつどいを東京全域でやるのもいいですね。(練馬・K)

## 事務局から

## ■東京連絡会発足1周年のつどい

10月24日と11月13日という2回にわけて発足1周年のつどいを開きました。ひとつめのつどいは約200名、ふたつめは約600名と多くの方に参加して頂きました。3本の講演は「とてもよかった」との感想が多く、その内容は本ニュースでも要点を紹介していますが、ビデオ録画をしてありますので、近い内にDVDにして販売したいと考えています。

参加して頂いたみなさん、また企画に協力して頂いたみなさん、どうもありがとうございました。

来年11月13日には、大田区産業プラザを全館借り切って、大規模かつ総合的な文化祭型企画「東京九条まつり」（仮称）を開催します。

☆ひとつひとつの九条の会が

舞台・飲食コーナー、  
共同作業など

主人公。事務局だけではなく、いろいろな地域からいろいろな企画を持ち寄り、1日かけて多彩な企画を盛り沢山。

☆九条を軸に人権、貧困、民主主義、教育など多彩なテーマがつながる。

☆九条の会に入っていない人、改憲についてまだ意見がはっきりしない人も参加したくなる。

☆そして楽しく、来れば必ず元気になる。

☆実行委員会にぜひご参加を！

12/21（月）18:30～20:30、エデュカス東京・地下会議室にて

ミニ学習会「衆議院比例定数削減とは何か」講師：坂本修さん（弁護士）

## 年額賛同金のお願い

発足1周年のつどいでも訴えましたが、東京連絡会の財政が逼迫しています。東京連絡会の財政はみなさんの賛同

寄付金と事業収入で賄うことになっていますが、現在、事務局が目標としている財政規模の約半分ほどしか確立できておらず、借金をしての自転車操業の状態が続いています。安定的な財政基盤の確保のために、ぜひ年定額の賛同金をお寄せ頂けるようお願いします。

賛同金をお寄せ頂ける方は、年額を以下の4種類（a～d）から1つ選んで、お名前／住所／電話／FAX／Eメールアドレスをご記入の上、東京連絡会事務局までご連絡ください。ご連絡頂いた方には、年1回、事務局から郵便振替用紙を送らせていただきます。

- a 年1000円を寄付する。
- b 年3000円を寄付する。
- c 年6000円を寄付する。
- d 年12000円を寄付する。

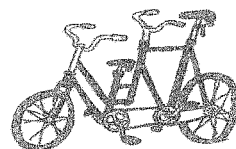
◆郵便振替口座

00180-

6-762960

九条の会東京連絡会

講演会、シンポジウム、  
ティーチン、  
映画、演劇、音楽、寄席、  
交流会、ブース展示、  
物品販売、



## 日本国憲法・前文と第九条が歌詞になった 「レクイエム いのちこそ」がCDになりました 世田谷・九条の会

2009年2月7日におこなわれた「世田谷・九条の会 4周年のつどい」で歌われて参加者に大きな感銘を与えた松原混声合唱団の演奏（指揮：清水敬一）による混声合唱組曲「レクイエム いのちこそ」（構成：土井大助、作曲：池辺晋一郎）がこのほど、会場録音をもとにCDになりました。

☆1枚800円（送料200円）で頒布しています。

ご希望の方は、世田谷・九条の会へFAXで申し込み。FAX：03-5779-3668

または、郵便振替で送料込みで送金してください。

口座：記番号 00110-5-260741

口座名：世田谷・九条の会